

学びに向かう力とともに育む幼小接続

＜主体性をはぐくみ、つなぐ研修会＞

9月9日（月）、中丹地域の園の5歳児担任、小学校1年生担任、中丹地域保幼小連携推進委員を対象に、「主体性をはぐくみ、つなぐ研修会」を開催いたしました。今回の研修会はテーマを「**学びに向かう力とともに育む幼小接続**」とし、実践発表や講演、研究協議を通して、幼小で子どもの学びと育ちをつなぎ、主体的に学びに向かう力を育む保育・教育の充実に向け、校種を越えて学びを深めました。

実践発表

舞鶴市立中舞鶴小学校 田中 万里子 教諭

一人一人の子どもに「学び手としての力」を育むために、スタートカリキュラムや生活科の授業、保幼小連携で実践されてきたことを、具体的なエピソードを交えて発表していただきました。



キーワード「子どもの思考を止めない」

講演

岐阜聖徳学園大学 教授 西川 正晃 様

「遊びから学びへのグラデーション」と題して、幼児期の「遊び切る」体験が子どもの栄養、学びの土台となり、小学校の学びに繋がるという幼小接続の本質について話をいただきました。



キーワード「心が動く」「繰り返す」

研究協議

1年生生活科「あきとなかよし」の授業について、幼児期に育まれた力を発揮させ、主体的な学びにするためにはどのような工夫ができるかについて、園の先生と小学校の先生で一緒に考えました。



研究協議

参加者の声

- ◇ 実践発表を聞き、学び手を育むために先生が大切にされてきたことは、幼児教育でも大切にされてきたものであり、まさに幼小接続が始まっていると実感した。子どもの育ちを視点にして互いに歩み寄っていくことが幼小接続に重要だと感じた。（5歳児担任）
- ◇ 教師は子どもの失敗を恐れてしまって先回りしたり、手助けしたりしてしまいがちだが「**子どもの思考を止めていないだろうか**」と一度立ち止まって考え直したい。教師は子どもの学びをサポートできる存在でいられるように、環境を整えたり声かけをしたりしていきたい。（1年生担任）
- ◇ 幼児期の『心を動かし、遊び込む』経験は子どもたちの学びの栄養となっていくこと、その栄養が多ければ多いほど土台は大きくなり、大きな山となっていくことを学び、納得できた。（5歳児担任）

確かな学力の育成に向けたカリキュラム・マネジメント

＜「中丹の教育」コア会議＞

10月29日（火）、中丹地域の小・中学校教務主任を対象に、令和6年度「中丹の教育」コア会議を開催しました。今回の会議では、「魅力ある学校づくり」をテーマに、確かな学力の育成に向けたよりよいカリキュラム・マネジメントについて、課題提起、講義、研究協議を通して考察しました。講義では、オンラインにて甲南女子大学人間科学部総合子ども学科 村川雅弘教授から、カリキュラム・マネジメントの具体や推進するための校内研の持ち方、ポイントについて、お話しいただきました。研究協議では、各教科と総合的な学習の時間を教科横断的な視点でつながりを考えたり、自校の総合的な学習の時間の計画が各教科の学びを活用、発揮する仕立てになっているかを確認したりする中で、気付いたことを共有し、自校のカリキュラム・マネジメントの推進に向けて、教務主任として何ができるのかを考えました。

学びの要点

- カリキュラム・マネジメントの三側面
  - 1. 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を**教科等横断的な視点**で組み立てていくこと
  - 2. 教育課程の実施状況を**評価してその改善を図っていくこと（PDCAサイクル）**
  - 3. 教育課程の実施に必要な**人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと**
- 全国学力・学習状況調査において、**探究的な学びをしていると児童生徒が答えた学校ほど、教科の学力値が高い。**
- 社会で生きて働く資質・能力を育成していくため、**教科等で身に付けさせた資質・能力を活用、発揮させる場面**を総合的な学習の時間に位置付ける。

参加者の声

- ◆ カリキュラム・マネジメントを進めていくためには、見通しを持った計画が必要であり、達成すべき目標に向けて組織的に行わなければならないというのを強く感じた。（小学校）
- ◆ 校内で決めたことをブレずにする（全員が継続、徹底）ことが効果を最大限にするポイントだと感じた。（小学校）
- ◆ 年度末に、今年度取り組んだ総合で、教科とどのように関連させたか、どんなことができたか、できなかったかを職員全体で共有する機会を設定したいと思った。（中学校）
- ◆ 総合的な学習の時間と教科等の学習が往還の関係にあることを教員だけではなく、子どもが実感し、それが主体的な学びの土台となるよう伴走していきたい。（中学校）

カリキュラム・マネジメント

○教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校教育計画。  
○学習指導要領等を受け止めつつ、子供たちの姿や地域の実状等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくこと。  
中央教育審議会答申（平成28年12月21日）

村川教授の講義(オンライン)



意見交流と研究協議